

戦後70年、ずっと「戦後」であり続けたい

戦争をさせない!!

それは、子ども達への、世界の人々への愛のカタチ

「国民の信を得た」と安部首相

「憲法改正を視野に入れる」と暴走

昨年12月の総選挙では、安部首相の党利党略解散で自公政権が衆議院の3分の2以上を知る結果となりました。安部首相は選挙中、ひた隠しにしていた集団的自衛権の行使容認について「国民の信任を得た」として強引に進めようとしています。「憲法改正を視野に入れる」とも発言しています。

さらに「イスラム国」による日本人人質殺害事件では、安部首相は「テロには断じて屈しない」と繰り返し、自衛隊の海外での活動拡大につなげようとしています。偏狭なナショナリズムを煽り、軍備増強と集団的自衛権行使容認に利用させてはなりません。

集団的自衛権を行使する「戦争法」の整備進む…5月が正念場か?!

集団的自衛権の行使は、昨年7月の「閣議決定」だけでは拘束力がありません。そのために安部政権は、「閣議決定」や改訂される「日米防衛協力の指針」（日米ガイドライン）に法的根拠を持たせるため、自衛隊法や周辺事態法、武力攻撃

事態法、PKO協力法などの安保関連法の「改正案」づくりを進めています。3月末には「改正」案概要をまとめ、4月の統一自治体選挙後に国会に提出、審議するとされています。

安保関連法の整備は「戦争法」の整備にほかなりません。戦後の安全保障・防衛政策を根本から覆し、自衛隊を「軍隊」として海外で戦争をできるようにするものです。

戦後70年の節目

新たな「戦前」にしないために

2015年は戦後70年。この間、日本は曲がりなりにも戦争をしない平和な国であり続けてきました。紛争地、戦地のPKO活動においても、後方支援に徹し、武力行使はしないという原則を確立してきたのです。

もし、集団的自衛権の行使を容認する安保関連法制が成立すれば、もはや「戦後」ではなく、「戦前」と呼ばれる時代となってしまいます。

戦争しない! 戦争させない!

武力によって平和を創り出すことは断じてできません。国際紛争を解決する道は、国際的な人道的経済支援と徹底した平和外交の展開にあります。

あなたの、私の、未来の子ども達の平穏で幸せな日々のために、私たちは「戦争をさせない」。そのためには、あなたの力、みんなの力が必要です。一緒に声をあげましょう。



長野県護憲連合

過ちを繰り返さないために

戦後70年…日本の過去・現在・未来を見つめ直そう

歴史を歪曲…危惧される「安部談話」

戦後70年の節目にあたり、戦後50年に発表された「村山首相談話」が歪曲されようとしています。

安倍総理は、去る1月25日のNHK番組で、8月に発表予定の戦後70年「安倍談話」について「今まで重ねてきた文言を使うかどうかではなく、安倍内閣としてこの70年をどう考えているかという観点から談話を出したい」と述べ、靖国神社に参拝し、戦争できる国に変えようとしてきた安部首相流の歴史認識に踏み込む姿勢をにじませています。

「戦後50年・村山談話」の継承を

「村山談話」は、「わが国は、遠くない過去の一時期、国策を誤り、戦争への道を歩んで国民を存亡の危機に陥れ、植民地支配と侵略によって、多くの国々、とりわけアジア諸国の人々に対して多大の損害と苦痛を与えた。疑うべくもないこの歴史の事実を謙虚に受け止め、ここにあらためて痛切な反省の意を表し、心からのお詫びの気持ちを表明する」とし、「来し方を訪ねて歴史の教訓に学び、未来を望んで、人類社会の平和と繁栄への道を誤らないことを銘記しなければならない」と訴えました。

憲法の恒久平和主義は国民の希望

過去の侵略と加害の歴史への深い反省に基づく日本国憲法の平和主義は、国民の総意であり、希望です。この間、県下では各界各層の幅広い呼びかけ人により「戦争をさせない1000人委員会・

戦後50年・村山富市首相談話

「…わが国は、遠くない過去の一時期、国策を誤り、戦争への道を歩んで国民を存亡の危機に陥れ、植民地支配と侵略によって、多くの国々、とりわけアジア諸国の人々に対して多大の損害と苦痛を与えました。私は、未来に過ち無からしめんとするが故に、疑うべくもない歴史の事実を謙虚に受け止め、ここにあらためて痛切な反省の意を表し、心からのお詫びの気持ちを表明いたします。また、この歴史がもたらした内外すべての犠牲者に深い哀悼の念を捧げます…」

信州」が立ち上げられ、地域版の「1000人委員会」は11地区で結成されるなど、大きな広がりとうねりを創り出しつつあります。

戦争の足音が聞こえてきている今こそ、過去の日本の過ちを振り返り、二度と過ちを繰り返さない、平和・非戦の誓いを主権者である私たちの力で確立しようではありませんか。

「過去に目を閉ざす者は 現在にも盲目となる」

安部首相には統一ドイツの初代大統領「ヒャルト・フォン・ワイツゼッカー氏の次の言葉を贈りたい。

「過去に目を閉ざす者は結局のところ現在にも盲目となる」(戦後40年、西ドイツ(当時)の首都ボンにおける連邦議会演説)

「過去を否定する人は過去を繰り返す危険を冒している」(戦後50年来日時の講演)。

2月11日…なぜ「建国記念の日」?

戦前、2月11日は「紀元節」と呼ばれ、子どもたちや教職員は登校し国民をあげてお祝いすることが強制されました。「日本書紀」で神武天皇が即位した日とされる神話をもとに明治政府が制定したもので、侵略戦争を美化し天皇を賛美する象徴的な日とされてきました。敗戦後、主権在民を定める日本国憲法に反するとして一旦は廃止されたものの、1967年に、国民の反対を押し切って「建国記念の日」として復活させました。

今日、「戦争をする国」が現実のものになろうとしています。気がついたら「徴兵制」の日本???

戦後の繁栄が、国民主権や戦争放棄を定めた日本国憲法のもとでつくられてきたことを考えると、日本という国の誕生日は5月3日の憲法記念日こそふさわしいと思うのですが…、いかがでしょうか。

長野県憲法擁護連合